

# 2020 年度事業報告書

## I. 事業環境

2020 年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、歴年で新設住宅着工戸数が 815 千戸（前年比 ▲9.9%）と昨年に続き減少となった。非木造床面積も 63,987 千㎡（前年比▲10.9%）と減少となり、原材料の高騰、建設労働者不足などと合わせて、業界を取り巻く環境は非常に厳しいものがありました。

## II. 事業活動

### (1) 開口部建材等に関する性能・仕様の普及啓発

#### 1) 窓の性能表示告示検討

##### 表示制度の基準の検討

資源エネルギー庁、経済産業省をオブザーバーとして参加いただいた WG を 7 回実施し、断熱性能での評価とする JIS4706 とするか、断熱性能と日射取得性能を含めた JIS2104 で進めるかを議論を行いました。最終的には有識者を交えた資源エネルギー庁での WG で来年度以降、引き続き議論をしていきます。

#### 2) 標準規格表の作成

全国 10 ブロックで開催するブロック会議にて取り纏め案を議論し、合意を得て進めた。

また、全国 46 都道府県（沖縄除く）のサッシ販売店、工務店にヒヤリング調査を行い、意見を取り入れ、サッシ協会のガイドラインとして取りまとめを行い、21 年 3 月作成した。

#### 3) 省エネ建材の普及促進

全国 10 ブロック委員に対し、オンラインにて会議を実施して住宅サッシの材質別構成比を示し、現状把握と啓蒙を行った。また、住宅サッシ・防火戸取扱い事業所向け講習会では、改正建築物省エネ法、外皮計算に使用する開口部の建具とガラスの説明を加えて行いました。

#### 4) 防犯建物部品の普及促進

5 団体防犯建物部品普及促進協議会に参加し、情報共有を行った。例年参加していた防犯防災展示会などへの出展は、コロナ禍の影響もあり見合わせた。警視庁の要請による防犯実務研修は、11 月に実施した。

#### 5) 住宅サッシ・防火戸取扱い事業所登録制度の運営

住宅サッシ・防火戸取扱い事業所向けの定期講習会はコロナ禍の中、WEB 講習会として 4 回開催。また、事業所向けの情報提供として、会報「窓快」12 号を発刊し、メールマガジン（No.83～94）を毎月配信した。

#### 6) CAS（遮煙・遮炎性能防火戸）使用登録制度の運営

片開フラッシュドアと片開框ドアの「遮煙性能試験報告書」を、2020 年 12 月より運用開始した。

#### 7) 環境負荷の低減を目指す自主環境行動計画の推進

新しい自主行動計画に基づき定性及び定量目標について 2019 年度実績を集計

## 8)保守点検についての普及促進活動

予防保全を目的に、サッシの部品破損の前に点検・交換等を推奨する内容の「安全に係る部品交換リーフレット」を、啓発活動の一環として協会一般向けHPへ掲載。

都道府県及び政令指定都市の教育委員会並びに私学担当部署に対して、例年2回リーフレットを発送していたが本年度は、コロナ禍の影響を鑑み1回(11月)とした。

## (2)開口部建材等に関する統計の作成及び資料の収集並びに情報の提供

### 1)2020年度住宅用建材とビル用建材使用状況調査を実施、発刊

住宅用サッシの高断熱化に伴い、Low-É ガラス、トリプルガラス等の利用率や、日射遮蔽を目的とした外付けシェードの取り付け率、宅配BOX採用状況追加で調査した。

### 2)各種標準仕様書の改定対応

平成31年版公共建築工事標準仕様書及び同監理指針の改定要望「複層ガラスのグレチャン対応」に対し、実績等補足説明を国土交通省営繕部に行い、要望が反映された令和4年版公共建築工事標準仕様書1次案に至った。

### 3)2021年度アルミ建材需要予測を公表

### 4)樹脂サッシ統計の整備

省エネ建材の普及状況の把握を目的として、樹脂外窓、樹脂内窓、アルミ樹脂複合窓の統計を、4半期毎に樹脂サッシ工業会と共同でデータを集計し、年度計を経済産業省並びに(一社)日本建材・住宅設備産業協会に報告した。

5)2020年施行の建築基準法改正を踏まえ、「鋼製防火戸に関する手引き」を改訂し、第4版として発行した。中小企業委員会主催のスチールドア全国研修会のテキストとして使用し、受講者への情報提供を行った。

### 6)BIMライブラリー技術研究組合対応

BIMライブラリー技術研究組合のBLCJ建築属性情報WG(サッシ)に参画。BIMにおけるサッシの属性情報の標準化に向けての情報提供とともに会員企業へ情報を提供した。

## (3)開口部用建材等に関する国際標準化への対応

1)ISO/TC162の運営(国際幹事国として)及びWG3、WG4、WG5の推進、委員会開催

2)ISO/TC162:建具の面内変形追従性試験方法のJIS開発・国際標準提案

## (4)開口部建材等の技術、品質及び規格に関する調査研究

### 1)建具(アルミフロントサッシ)接合部の耐力試験・評価方法の整備

アルミフロントサッシの耐風性能向上に資する試験方法の調査を国総研からの委託事業として受託。学識者を含めたフロントサッシ検討WGを3回開催、12月25日付で調査報告書を提出し、接合部試験方法の原案を完成させた。

### 2)JIS規格等の維持管理

JIS A 4702(ドアセット)、4706(サッシ)、JIS A 5545(サッシ用金物)の建築専門委員会の対応

### 3) 新標準化に向けた調査・検討

- ・建具の飛来物衝突試験の実施
- ・窓用シャッターの耐衝撃性の検証試験の実施
- ・窓用シャッターの JIS 化に向けた調査・検証
- ・強風時のあおりの特性分析と基準作りに向けた要素検討

### 4) 防犯建物部品の技術開発・審査

2020 年度「防犯性能の高い建物部品」通則申請審査による追加品目数は、第 47 次 4 品目、第 48 次 3 品目、第 49 次 2 品目、第 50 次 8 品目

### 5) 窓の省エネルギー調査研究

#### ① 建材トップランナー制度への対応

全国ブロック会議を全国 10 ブロック 10 会場で開催し、住宅用建材使用状況調査の窓の材質別普及状況、高断熱サッシの普及状況の報告に併せ、建材トップランナー制度の状況を共有し、高断熱サッシの普及啓発に努めた。

#### 6) スチールドア検証試験の実施

要望の多かった「遮煙」性能試験を 2020 年 9 月 9 日に実施し、片開フラッシュドアと片開框ドアの「遮煙性能試験報告書」を、2020 年 12 月より運用開始した。

## (5) 開口部建材等の製造業及びそれらの関連業に従事する者を対象とする人材育成事業

### 1) 資格認定技能検定

#### ① 積算資格認定制度の運営

2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止。

2021 年度実施に向けて、コロナ対策ガイドラインを作成し運営することとした。

#### ② 登録サッシ・カーテンウォール基幹技能者育成事業

講習講義は弘前、北九州で実施し、当初講習 33 名が合格したものの、更新講習対象者 321 名の内、合格が 267 名と 54 名減となった為、登録サッシ・カーテンウォール基幹技能者は、累計で 1,075 名となった。

#### ③ サッシ施工員の次世代の担い手育成に向けた PR 活動

次世代担い手育成に向けて、協会としての PR 活動 DVD 作成予定。

カーテンウォール編 DVD 制作は、新型コロナウイルス感染症の影響で延期。

### 2) 研修会

#### ① ビルサッシ契約適正化推進活動

2021 年 3 月 5 日「第 16 回 2020 年度ビル建材全国契約適正化推進会議」を開催

『支部・地区における契約適正化推進活動の進捗状況と今後の対策確認』については、

支部地区報告シート内容に対して本部から質疑を発信し、支部地区より回答を貰い、報告シートと併記する形式の会議資料を公開することで、16 支部地区の契約適正化推進に対する取組み状況を共有する事とした。

## ②アルミフロント取扱店における契約適正化

フロント取扱店への聞き取りを実施。取引会社向けに契約適正化を促すリーフレットを作成した。

## ③住宅サッシの契約標準化講習会

全国10ブロック対象に9回実施した。各ブロックの要望を受け、初めての試みとして、WEB(ZOOM)にて開催した。受講者により興味をもっていただく為、先行して改善が進んでいる新潟県のサッシ販売店にビデオレターを頂き、改善事例を伝えた。

## ④スチールドア全国研修会

Webを活用した「2020年スチールドア全国研修会」の開催

スチールドアメーカーの地位向上や業界担い手の育成を目的とし、『スチールドア全国研修会』を開催(3月末～4月末)。主催:(一社)日本サッシ協会、(一社)日本シャッター・ドア協会、共催。コロナ禍により、従来の集合型研修は難しいと判断し、2020年春に従来型の研修は中止を決定したが、業界担い手の育成を中止するわけにはできないので、インターネットを活用した研修形態を研究し、実施することにした。2020年度は実験的な意味合いもあり、受講料は無償とし、テキスト関係は研修講座ページより、受講者自身でダウンロードする形態とした。建築基準法の改正については、SD部会と協働し「鋼製防火戸に関する手引き」を第4版に改訂を行い、販売を始めた。

## (6)開口部建材等に係わる情報収集及び提言

1)行政からの各種助成・支援制度情報収集と制度設計への提言

2)「建築基準法に規定される13m以下適用除外」の妥当性検証を目的に、強風等によって発生するアルミフロントの被害について調査を継続した。なお、近年の台風による強風ではアルミフロントでも被害が発生したため、アルミフロント取扱店に対し安全管理徹底のためにリーフレット等で注意喚起をおこなうとともにフロントサッシの施工事例に関する調査を実施。国総研委託業務として全国10地域、全17物件の施工事例を調査、報告した。

3)BIMライブラリー技術研究組合対応

BIMライブラリー技術研究組合のBLCJ建築属性情報WG(サッシ)に参画。BIMにおけるサッシの属性情報の標準化に向けての情報提供とともに会員企業へ情報を提供した。

## (7)前各号に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業

1)会員企業の情報セキュリティ対策

サッシ協会ホームページのサイトアクセス状況が、2019年度平均13,397件/月に対して14,491件/月と増加傾向にあるが、会員専用情報セキュリティ・ビュー数は変わらず減少傾向にある。情報セキュリティ周知の為、会員企業の皆様に四半期単位でコンテンツをサマリーし、PDFにて、直接送付した。

2)施工管理者安全推進大会の開催は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。

以上